十和田市議会
31.4.24
収受
65

様式第８号（第５条関係）
（その１）

平成３１年　４月24日

十和田市議会議長
竹　島　勝　昭　　様

会　派　名　　自民公明クラブ
経理責任者　　江　渡　信　貴 [redacted]

平成３０年度（１月～３月）政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第７条第１項の規定に基づき、
別紙のとおり平成３０年度（１月～３月）政務活動費収支報告書を提出します。

（その２）

平成３０年度（１月～３月）政務活動費収支報告書

会派名　自民公明クラブ

１　収　　入

政務活動費　８４０，０００円

２　支　　出

（単位：円）

科　　目	金　　額	備　　考
調査研究費	６９０，３５４	2/10～12　東京都　社会福祉法人友愛十字会、山梨県山梨市（行政視察）
研修費	５１，２２６	1/21～22　地方創生フォーラム（東京都）
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合　　計	７４１，５８０	

３　残　　額　９８，４２０円

（注）備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

<平成３０年度>
<１月～３月分>

政務活動費使用状況

自民公明クラブ

会派名	金額	備考	
収入	840,000	30,000円×10人×１カ月 30,000円×9人×２カ月	
議員数	9		
支出			
調査研究費	690,354	2/10～12　東京都、山梨市(行政視察)	690,354
研修費	51,226	1/21～22　地方創生フォーラム（東京都）	51,226
広報費	0		
広聴費	0		
要請・陳情活動費	0		
会議費	0		
資料作成費	0		
資料購入費	0		
人件費	0		
事務所費	0		
合計	741,580		
残額	98,420		

調　査　研　究　費

（その３）

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ

活動議員名（取扱議員名）		
石橋義雄	織川貴司	小川洋平
堰野端展雄	江渡信貴	斉藤重美
氣田量子	中尾利香	中嶋秀一

区分				合計金額
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費	690,354円
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		

期間 （年月日）	平成31年2月10日　～　2月12日　（　2泊　3日）
支出目的 （支出理由）	2月11日 〈東京都　社会福祉法人友愛十字会〉 ・介護ロボットについて 2月12日 〈山梨県山梨市〉 ・山梨市役所女子観光プロモーションチームの取り組みについて
用務先 （支払先）	東京都　社会福祉法人友愛十字会、山梨県山梨市
内容及び成果	別紙　視察報告書のとおり

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

十和田市議会・自民公明クラブ

社会福祉法人　友愛十字会視察報告書

中嶋　秀一

日時　　平成３１年　２月１１日（月）10：00　～

場所　　東京都世田谷区砧３丁目９番１１号

★介護ロボットモデル施設

東京都では、ロボット介護機器の効果的な活用方法の検証や普及を行うため、平成２８年度から２年かけてロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業を行いました。このモデル施設の一つが「社会福祉法人　友愛十字会　砧ホーム」です。

★「ロボットとともに生きる　―働き方改革―」

世田谷区の南部に位置する「砧ホーム」は、多床室を基本とした従来型の特別養護老人ホームです。介護職をメイン職種、他職種をサポート職種としたチーム連携を重視し、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」の導入や、介護リフトを活用した「持ち上げないケア」の実践など、介護専門職の専門性を支持する最先端の取組を推進しています。

★施設概要

入所定員　　60名

短期入所　　4名

平均年齢　　88.4歳

介護職員　　21.6名

★介護ロボットの導入の利点

○介護ロボット機器の導入により、利用者の床上活動場面におけるベットからの転落転倒のリスク軽減

○見守り支援ロボットによる臥床時の見守りに伴う介護職員の不安や負担の軽減

○介護職員の排泄介助場面における、便座への掛けおろし・抱え上げ動作に伴う身体的負担、およびベッド上おむつ交換・更衣介助に伴う中腰動作による身体的負担軽減。

○ネコ型・アザラシ型ロボットによるアニマルセラピー効果は、「心理的効果」「生理的効果」「社会的効果」が実証されています。

様々な実証実験により、ストレス低減、うつの改善、不安の低減、苦痛の低減、認知症の周辺症状の緩和・抑制、会話機能の改善・回復等、セラピー効果が示されています。

※利用者の安全で安心できる環境づくりとともに、介護職員の“腰”への負担軽減により、大好きで大切な仕事だからいつまでも長く働き続けたい、

という就業環境改善にもつながる

★介護機種の内容

次世代介護機器２分野・５種・２２台の活用

「なでなでねこちゃんD」×2×1台

「シルエット見守りセンサ」×5台

「PARO」×１台

「マッスルスーツ®×２台

「見守りケアシステムM1」×１３台

★視察を終えての感想

今回議員となり初めての視察となりました。

今後少子高齢化が進む中、介護施設の充実と、介護職員のスキルアップが課題となります。その中で介護ロボット機器の導入はこれから益々進むものと思われます。砧ホームではこの介護機器の導入に当たり、国と都から８割くらいの支援をいただいたといっておられました。

当市では介護ロボット機器を導入している施設があるかどうかは調べていませんが、利用者の安心・安全な介護と職員の負担軽減のためにも、ロボット介護機器の導入を進めるよう努めてまいりたいと思います。

山梨市役所「女子観光プロモーションチーム」の取り組みについて

十和田市議会　自民公明クラブ　中尾利香

● 視察日時

平成31年2月12日（火）　9：00

● 視察先

山梨市役所

1　市の概要

山梨市は、甲府盆地の東部に位置し、面積は289.80平方kmで県内第4位の広さを有しています。西部から南部にかけては甲府市及び笛吹市、東部は甲州市、北部は埼玉県秩父市及び長野県川上村にそれぞれ接しています。

また、都心から約100km圏、JR中央線、中央自動車道で90分という交通の利便性に恵まれています。

地形的には、笛吹川沿い南北につながり、北部は山岳・丘陵地帯、南部は笛吹川左岸に平坦地、右岸は平坦地から丘陵地帯が広がっています。

面積の8割を森林が占め、笛吹川とその支流の琴川、鼓川、日川、重川などがもたらす肥沃な土地の恩恵を受け、なだらかな斜面や平坦地に広がる桃・ぶどうの果樹園は、美しい景観をおりなすとともに、県内有数の生産量を誇っています。

2　山梨市役所「女子観光プロモーションチーム」の取り組み

(1) チーム結成の経緯

平成21年9月3日、観光振興や地域活性化に女性のアイディアを取り入れよ

うと、女子職員７人だけで構成する「女子観光プロモーションチーム」を結成されました。

このプロジェクトは、女性に魅力的な観光環境を整え、観光客の増加につなげるには「女性の視点も重要」と、市の女子職員に参加を呼び掛けたものです。

プロモーションチームのメンバーは、『私にできる！私が考える！山梨市の観光振興』をテーマにレポート提出によって選考された16人。独身女性から子育て真っ最中の女性まで、所属部署や年齢層もさまざまです。

(2) チームの代表的な活動

・身体を温める生姜入り「イチゴジャム」づくり（3か月で1、000個販売）

・「感じの良い表情と心も体も元気になるメイク」講座

・大弛峠周辺のPRとごみの持ち帰りを進めるキャンペーンの開催

・香りのおもてなし講座の開催

（アロマテラピーで香りの環境を整えましょう）

・アロマテラピー学習会

「やまなし産の蜜蝋を使ったハンドクリーム」の製作

・笛吹川フルーツ公園のクリスマスイベントの実施

・「おもてなし」のための接遇講座の開催

・小楢山PRのための現地調査の実施

・「吉田の火祭り」観光（シャインマスカット）

・女子観光プロモーションチーム英語版ホームページ制作

3　視察を終えて

女子プロと呼ばれている山梨市役所「女子観光プロモーションチーム」は、女性ならではの視点で、山梨市の観光振興と地域の活性化に結び付くような新たな企画を今後も考えているようです。

女子プロが成功している理由としては、以下の点があげられます。

①観光地での消費は女性が多い

②女性の好きな「桃」「ぶどう」の生産が盛んである

③女子プロの活動を観光課がバックアップしている

④素晴らしい統率のある女性リーダーがいる

最近では、女子プロの意見を聞きたいということが多くなってきているとのことです。またメンバーのみなさんは、女子プロを市役所のオアシスと思って活動をしているようです。

女性たちの趣味、資格、特技、ネットワークを生かし人材育成を行っている女子観光プロモーションチームは、十和田市の女性活躍、新時代を考えていくうえでも必要であると感じました。

（その３）

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ

活動議員名（取扱議員名）		
中　嶋　秀　一		

区　　分				合計金額
1　調査研究費	2　研修費	3　広報費	4　広聴費	51,226円
5　要請・陳情活動費	6　会議費	7　資料作成費	8　資料購入費	
9　人件費	10　事務所費	※該当する区分に○印		

期間 （年月日）	平成31年1月21日　～　1月22日　（　1泊　2日）
支出目的 （支出理由）	1月22日　東京都 ・地方創生フォーラム「官民連携と地域連携で実現する地方創生」
用務先 （支払先）	東京都千代田区　日経ホール
内容及び成果	別紙　報告書のとおり

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

「官民連携と地域連携で実現する地方創生」
に関する報告書

十和田市議会・自民公明クラブ
中嶋　秀一

研修日時
開催日時　　２０１９年1月２２日（火）　10:00 ～17:10
会場　　東京　日経ホール
主催　　日本経済新聞社　「共催」ＵＲ都市機構　「後援」内閣府

内容　　少子高齢化が進む中、地方都市では仕事の確保、生産、流通、また観光資源の有効活用など課題が山積する中、行政としてどう取り組み、何をするべきかを模索しています。
　地方都市再生が望まれてはいますが、具体的に何をどのように進めるかをアドバイスする機関や国としての援助、取組について勉強したいと思い、今回の「官民連携と地域連携で実現する地方創生」フォーラムに参加いたしました。
この講演では、実際に街づくりをされた静岡県の沼津市、頼繁秀一　市長や、
新潟県糸魚川市の米田徹　市長が基調講演をされました。

●「頼繁秀一　市長」は、「沼津市駅周辺整備事業」を通し、中心市街地の人の回遊性を高めるための街づくりに着手。「中心市街地まちづくり戦略会議」を開催し、
一、　駅周辺の公共空間を車中心からヒト中心に再編
二、　新たな都市機能の導入
　の二つのテーマについて検討し、道路、公園、河川など公共空間の実験活用や民間リノベーションとのにぎわいの創出を計画。
　街の顔である中心市街地を、ヒトに魅力ある都市空間に再編し、「誇り高い、元気なまち沼津」を目指している話をされました。この公共空間を作ることにより、人が市中心部に流れ消費拡大にもつながっているとのことでした。

●「糸魚川市の米田徹　市長」は２０１６年暮れの糸魚川駅北側で発生した大火は１４５世帯５６事業所を消失させ、市街地は変わり果てた姿になりました。この風害による自然災害から再建に取り組み、２か月後にはがれきが撤去され、また国土交通省から副市長、ＵＲ都市機構から復興管理監が派遣され、復興推進課を組織し、８か月後には復興まちづくり計画を策定。その計画では
一、　災害に強いまち
二、　にぎわいのあるまち
三、　住み続けられるまち
　を方針に掲げました。この糸魚川市は海と山に囲まれた自然豊かな街で、日本の国の石、ヒスイを産出し、日本で初めてジオパークに認定された地域でもあります。
　そこで市内２４か所にジオサイトと呼ぶ地質学的な見どころがあることを売りに、

郷土の魅力を国内外に発信し訪れたくなる街にすることで、復興支援への恩返しにしたいと取り組んでいるとのことでした。

●また、後援の中で「スノーピーク地方創生コンサルテングの　後藤健市　社長」は
『自分の地域には何もないと言う人もいるが、実際は資源の宝庫であり、どう生かすかが重要だ。私は３３年間、各地域にある資源を生かす活動を続けてきた。
駐車場だった場所を屋台村にしたり、空きビルをシェアリングの場に活用したりして地域の価値を高めている。

地域住民は自分の地域をマイナスに捉えていることが多い。都市を真似するのではなく、地域の個性を肯定的にとらえてプラスに生かすことが、地域プライドの創出と地域ブランドの構築につながる。今後インバウンドも含め外からの多くの人が流れてくることを考えると、地域の文化と季節感を意識して、質を高めていくことが大事だ。

一番の課題は、真面目すぎて楽しくない街づくりになってしまうことだ。楽しくて格好いいバランスが取れているまちづくりが重要だ。
ヒトは楽しいことには効率も損得も気にせず、時間やお金を使う。楽しい遊びは今後の地域活性化の軸になる。
失敗を恐れてばかりいると何も生まれない。諦めたら失敗だが、そうでないうちは未成功だと捉え、皆が自分事として果敢にチャレンジすることも必要だ』

●「和歌山県の南紀白浜エアポート代表取締役社長の岡田信一郎」　氏は、
地域の活性化と観光客誘致について、官民連携や地域連携による様々な施策で大きなムーブメントを起こしています。
旅行誌「ロンリープラネット」の「訪れるべき世界の地域 2018」で、紀伊半島が世界５位に選ばれるなど世界的評価も高い白浜は紀伊半島南西部にあり、世界遺産でミシュラン３つ星　の熊野古道をはじめ観光資源に恵まれています。

この地域では行政による環境整備が広く行われ、
一、IT（情報技術）企業の誘致や旅先で休暇を楽しみ仕事もこなす「ワーケーション」の聖地化。
二、ホテルのリノベーション支援や新規進出支援
三、サイクリング王国わかやまの推進
四、南紀白浜空港の民営化
五、串本町への民間ロケット発射場の誘致

――などが地域活性化の大きな下支えとなっているとし、
観光では、首都圏の富裕層やファミリー層、サイクリストをはじめ、海外の知的富裕層や東北の顧客層を誘致するとしています。

また旅行会社を招待し、地元観光先の案内や地元の名産品をアピールしています。

いまでは
和歌山県や白浜町が進める同町へのIT企業誘致戦略により、ビジネス客の空港利用が増え、空港の17年度の搭乗者数は13万人だったのが、18年度は15万人になり、東京からの便を増やす計画も進めているそうです。

等々の実際に地方創生に成功した話が講演されました。

今回のフォーラムに参加し、一市議会議員として十和田市の発展、活性化に努めてまいりたいとさらに強く決意いたしました。